

平成28年3月25日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

会 派 名 無会派
代表者氏名 安 倍 太 郎

調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- 1 調査者氏名 安倍 太郎
- 2 調査期間 平成28年1月19日から
平成28年1月21日まで 3日間
- 3 調査地
及び調査内容
(1) 福島県須賀川市
・イメージアップ戦略「ウルトラマン関連事業」について

(2) 茨城県小美玉市
・「空のえき そ・ら・ら」整備事業について

4 目 的

(1) 福島県須賀川市

- ・イメージアップ戦略「ウルトラマン関連事業」について

須賀川市では、平成25年度事業でWEB上での架空都市でありウルトラの父を町長とした「すかがわ市M78星雲光の町」HP開設や光の町住民登録、姉妹都市提携記念のオリジナルデザインによるモニュメントの設置、原付バイクのご当地ナンバープレートが発行など、多岐にわたる取組を実施した。

また、ウルトラマン前掛けやトートバックなどが市内企業により商品化されたほか、郵便局において風景印の取組など、民間と協力しウルトラマンキャラクターを活用した取組を展開している。

本市においても、仮面ライダー等、石ノ森キャラクターを活用したまちづくりを推進しているところであるが、民間事業者との連携・協力について、先進地である須賀川市の取組を学ぶことにより、今後の事業推進の参考とする。

(2) 茨城県小美玉市

- ・「空のえき そ・ら・ら」整備事業について

小美玉市では、平成23年に開港した茨城空港への来場者にとって小美玉市が通過点とならないよう、さらに地場産業の促進と持続可能な地域の産業モデルを構築するためのコミュニティーセンターとして官民が一体となり「空のえき そ・ら・ら」を整備した。

また、当該施設には小美玉市が誇る“食”と“農”を中心とした直売所や乳製品の加工工場、地産地消のビュッフェスタイルのレストラン、地域で独立を目指す事業者を応援するためのチャレンジショップなどが整備されている。

本市においても、「生鮮マーケット」の整備事業計画があることから、官民一体での運営手法及びチャレンジショップを整備するまでの応援プロセスとノウハウについて、先進地である小美玉市の取組を学ぶことにより、今後の事業推進の参考とする。

5 調 査 概 要

(1) 福島県須賀川市

- ・イメージアップ戦略「ウルトラマン関連事業」について

ロイヤリティーについて

まちなかの交流施設について

市の観光戦略の中の位置づけについて

事業の由来について

(別添資料のとおり)

(2) 石川県かほく市

・「空のえき そ・ら・ら」整備事業について

(於「空のえき そ・ら・ら」、説明者：川原井駅長、中村課長補佐)

2006年の合併により、小川町、美野里町、玉里村の3町村の頭文字を1文字ずつ取り、小美玉市が誕生した。

2010年には首都圏3番目の空の玄関口として「茨城空港」が開業、航空自衛隊百里基地が隣接していることから、様々な飛行機が見られる場所として、全国から多くの航空ファンも集まる。この年間100万人が訪れる観光客と交流人口50万人を、どう、取り込んでいくかということで、「空のえき そ・ら・ら」の開設となった。

名前の由来については、日本全国からの応募があり決定したもので、「空のえき」については、茨城空港の近くにあり、旅客機などが飛び交う大空に抱かれ、無限に上昇し発展する恵みの城のイメージをもたせるための「空のえき」と名付けられた。

「そ・ら・ら」はピアノの「ソ・ラ・ラ」音を表わしており、心が弾むような楽しい印象を与えます。子どもからお年寄りまで、長く広く親しんでもらえるようにと名付けられました。

施設面積は2.5ha。その中に直売所、物産館、乳製品加工施設、レストランはチェーン店である坂東太郎が営業。チャレンジショップには、将来独立を目指している地元の方々に低料金で1～2年賃貸し、援助していくシステムとしていた。これら施設の中央には一面の芝生広場があり、太陽、イベントひろばとして活用。年間160回もの様々なイベントが催されていた。

この施設の事業費は、1,943,300千円。内訳は「まちづくり交付金」367,600千円、「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」229,000千円、「合併特例債」1,230,100千円、「新市町村づくり支援事業」63,800千円であり、「一般財源」は、52,800千円である。

運営については、市（駅長）が管理するもの（公共施設）とレストラン等、収益施設については、市と業者の直接契約となっていた。

6 所 感

(1) 福島県須賀川市

・イメージアップ戦略「ウルトラマン関連事業」について

DMOとの位置付けなどはなし

本市単独で行い効果のありそうなところは、ロイヤリティーの部分。当初、須賀川青年会議所が主体となり行ったまちづくり事業からの延長で民間団体が立ち上がり、その後、まちおこしで円谷プロとつながるが、当初、公事業として行ったおかげでロイヤリティーに関してはかなり優遇されているように感じる。それは、市中で販売しているキャラクターものや物産にもロゴが採用されており、今後の観光戦略のキーと

なるであろう空間演出に非常に効果があると感じた。

これも、ロイヤリティーが非常に安く抑えられているからできる部分であり、市施策としてこの部分、取り組むべきと感じる。

(2) 茨城県小美玉市

・「空のえき そ・ら・ら」整備事業について

【これからの課題】

ア リピート客の確保

イ 指定管理者への移行

ウ 物語づくりであり、施設を拡大し、市民農園、乗馬クラブも必要とのこと

7 調査による石巻市への政策提言等

(1) 福島県須賀川市

・イメージアップ戦略「ウルトラマン関連事業」について

現地職員にロイヤリティー関係の書類提出をお願いしたが、契約先である円谷プロダクションから「本契約が、本市との関係性の中で成り立つものであり、汎用的なものではないこと。他の契約への影響も懸念されることなどから、その詳細について文書で明らかに示すことについては遠慮願いたい。」との申し入れがあったそうで、内容は見ることはできなかった。

一方、これが示唆するところは、関係性があれば特殊な契約は可能であることであり、石巻市においても応用すべきと考える。

その背景として、漫画のまちづくりといいながら、拠点整備のみにとどまっており、地元文化との融合やまち全体での盛り上がりにはいまひとつかける。須賀川市では「石巻市の後追い」といいながらも、商店での包装などにもキャラクターを応用しており、市全体での後押しがあるように感じた。

これが全体の空気感をつくるのであり、石巻市において、今後も漫画のまちづくりを推進するのであれば、市全体での後押しが必要となる。

市中で話を聞けば、ロイヤリティーの問題があるため、包装や意匠への応用が効かない内容になっており、苦勞しているという声もある。

これは行政単位でまちづくりをしている以上、市が積極的にリードして解決すべき課題と考える。

(2) 茨城県小美玉市

・「空のえき そ・ら・ら」整備事業について

2014年7月にオープンして来場者が延べ人数100万人という数字を出しまし

た。駅長は公募により元県庁職員とのことですが、この施設経営に対して、様々なアイデアを展開し、集客に努めていました。

当市においても近々お魚市場の開設に向って動き出しますが、経営者の明確な経営理念と商売につながる実践力をどうつなげていくかで、おのずと結果は出てくるものと感じたので、今回の事例を参考としてスタートするのが肝要と思います。

- | | |
|--------|----------|
| 8 調査経費 | 60,799円 |
| 9 添付書類 | 別添資料のとおり |